

Who killed Cock Robin?

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/44213

「だれが殺した クックロビン」

Who killed Cock Robin?

金沢大学附属病院経営企画部
長 瀬 啓 介

もちろん、マザーグースだ。「駒鳥のお葬式(ともらひ)」と訳された¹⁾この詩では、『誰が殺した、駒鳥の雄を』という問いに、雀が殺害とその手段を自供し、目撃者も名乗り出る。だが、その後は司祭の役など葬式の段取に話が進み、だれもその殺害の動機を問わず、雀を責めることもない。小説とすれば筋もなく、詩としても実に「怪しからむ」詩だ。「Who killed Cock Robin?」の初邦訳は、明治48年竹久夢二が作中に訳した一節²⁾とされ、以来、北原白秋、谷川俊太郎、寺山修二などにより翻訳がされている。それでも、私にとっては「だれが殺した クックロビン」だ。

もちろん由来は、少女漫画だ。この表現は、少女漫画の傑作である萩尾望都の「ポーの一族 小鳥の巣」³⁾あるいは、1977年以来現在まで連載が続く耽美ギャク少女漫画、魔夜峰央の「パタリロ!」(『花とゆめ』等連載)に現れる。私にとって「Who killed Cock Robin?」は、「だれが殺した クックロビン」と歌いながら踊る⁴⁾「怪しからむ」詩である。したがって、1998年 *British Medical Journal* (BMJ) で、「Who killed Cock Robin?」⁵⁾という記事を見つけた時、私が「クックロビン音頭」を踊ったのは仕方がない。

BMJのこの記事は、Royal Bristol Infirmaryで起きた一連の手術関連死に関して書かれた記事だった。1988年から1995年に同病院で行われた53人の小児に対する手術で、29人が死亡し4人が脳障害を残したという手術関連死事案だ。原因は術者の未熟によると結論付けられ *Bristol Heart Scandal* と呼ばれた。これを契機に、英国では行われる医療行為を医師の自治に任せておいてよいのかを問う議論が起きた。この記事は、医師による自治を駒鳥に重ね、自治の制約について述べた記事だった。患者と日々接しそして人の健康と生命への強い情熱を持ち続ける専門職である医師は、人々に健康をもたらす最善の途を知ると期待されている。だから自治と裁量が広く与えられてきた。この問題を契機の一つとして、医師の技能・能力の評価による医療行為の当否を組織的に判断することを含む“Clinical Governance”がNHSで重要な課題となり、現在に至っている。

私は1999年に米国のいくつかの大規模病院を訪ね、大学と大学病院の運営上の関係を調査する機会を得た。その際に持ち帰った大学病院の内規集を読み進めるうちに、すでに米国では医師の能力を組織的に評価し、それ

に基づいて診療権限を決定する制度が確立している⁶⁾ことを知った。つまり米国では、*Bristol Heart Scandal*を予防する仕組みがすでに存在していた。

時を隔てて2015年、ふたたび私の頭の中に「クックロビン音頭」が流れた。ある国立大学病院において、同一の術者による手術関連死が多数あることが判明し、社会的な問題となった。なぜか、この過程で *Bristol Heart Scandal* は話題にならない。*Bristol Heart Scandal* から15年以上へてなお、我が国の医療の管理は英国に遅れている。先達たる他国から学ぼうとしていない。ギャグ漫画よりつまらない展開だ。だが、この遅れは驚くにも値しない。昭和23年には、日本は「医学が進歩しているにもかかわらず、管理運営面においては欧州における中世期の状態に等しいとさえ言える」⁷⁾とGHQで酷評されていた。これを思えば、15年遅れは遥かにマシではないか。

この手術関連死を契機に、厚生労働省はすべての特定機能病院に調査に入り、医療行為の管理体制を強化する医療法改正が現在検討されている。「自治と裁量を殺したのはだれか？」”Who killed Cock Robin?”と、かつてのBMJの記事で記された課題が、いま日本で再現されるようにも思える。英国では、組織的な対策を医師の自治の枠組みの中で *Clinical Governance* として実現し、再発を予防しようとしている。我が国ではどうしようとするのか。医師による自治の死をとむらうことになるのだろうか。

文 献

- 1) 北原白秋訳. 駒鳥のお葬式. まざあ・ぐうす. 1-7頁(本文), アルス社, 東京, 1921
- 2) 竹久夢二. 少年と春 I. さよなら. 1-2頁, 洛陽堂, 東京, 1910
- 3) 萩尾望都. 小鳥の巣. ポーの一族(3). 45-46頁, 小学館, 東京, 1974(初出は『別冊少女コミック』1973年6月号「小鳥の巣」第3話)
- 4) 魔夜峰央. スターダスト. パタリロ!選集2. 130頁, 白泉社, 東京, 2011(初出は『花とゆめ』1980年6月5日発売13号)
- 5) Tony Delamothe. Who killed Cock Robin? *BMJ* 316:1757,1998
- 6) The University of Iowa University Hospital Advisory Committee. BYLAWS RULES & REGULATIONS of the University of Iowa Hospitals and Clinics and Its Clinical Staff. University of Iowa, Iowa city, 2000
- 7) 松田 朗. 国立医療・病院管理研究所への思い. 週刊医学界新聞2000年1月10日号(第2370号) 医学書院, 東京, 2000